

## 〈PTA全体委員会（2月21日）報告〉

■ [平校長\(PTA名誉会長\)より学内報告 1](#)

■ [木村PTA会長より挨拶 2](#)

■ [学年代表 活動報告 3](#)

■ [分科委員会 4](#)

- └ 総務委員会
- └ 行事委員会
- └ 新聞委員会
- └ 会報委員会
- └ PTA活動推進委員会

■ [編集後記 6](#)



## 平校長(PTA名誉会長)より学内報告

一日毎に日足の伸びを感じるこの頃、麻布学園PTA役員の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。3学期も残すところ丁度ひと月となりました。先月には大学入学共通テストがあり、埼玉、千葉では中学入試が始まり、今月には東京、神奈川の中学入試、そして私立大学の入試が始まりました。まもなく国公立大学の2次の入試も始まります。

先々週、日本では総選挙があり自民党が大躍進し、イタリアではミラノ・コルティナオリンピックが開幕し、日本の若い選手らが大活躍するなど大きなイベントがありました。

PTA活動としては、1月17日夕刻、地下食堂で恒例の「校長と麻布の教育を語る会」（抽選により80名参加）、2月14日午後、講堂でファミリーコンサートが開催され、いずれも盛況のうちにお開きとなりました。準備、運営にあたられた皆さまに感謝申し上げます。

今はいずれの分科委員会も年度末進行に余念のないことだと思います。何かと気ぜわしく過ぎる毎日ですが、そんなときにこそ、心に余裕を持つことが大切です。皆さまの多くは本校への行き帰りには有栖川公園わきの坂道を通る方が多いと思いますが、この時期、公園の中ほどにある梅林では紅白の梅が満開となって甘酸っぱいにおいが冷気の中に満ちています。今日お帰りの際にでも春の気配を感じてみてください。

3月6日には高校の卒業式が開催されますが、すでに東大や京大、東京科学大などの推薦型の特別入試では本校から合格者が出ています。年末に高校3年生全員の大願成就を祈念して亀戸天神にお参りし絵馬を掲げてきましたが、天神様にあやかって今年もたくさんの梅の花が咲くことを祈っています。

同日から高校2年生以下は学年末試験が始まります。この3学期もインフルエンザでいくつかのクラスで学級閉鎖となりましたが、心身に気を配り真剣に試験と向き合い、ベストを尽くしてほしいと思っています。

さて、これも3月6日から会期がはじまるのですが、島根県松江市にある島根県立美術館において生誕150周年を記念して同県出身の肖像画家「石橋和訓展」（いしばし・かずのり 1876-1928）が開催されます。（6月8日まで）普段は江原記念室に掲げられている本校創立者江原素六の肖像画も彼の画筆による作品であり、同美術館の要請があって同展に貸し出ししています。この機会に明治期にイギリスに渡り、ヨーロッパの洗練された油彩技法を身につけた彼の作品群をご覧になってはいかがでしょうか。

## 木村PTA会長より挨拶

「梅は咲いたか桜はまだか♪」のフレーズが浮かんでくる季節になりました。春が徐々に近づいてくるのを感じるとともに、大学受験を控えた麻布生・卒業生が体調を崩すことなく最後まで全力を出し切ってほしいと願っております。麻布中学入学試験に見事合格し、入学してくる新入生の笑顔が見られるのも楽しみです。

さて、麻布PTAの活動ですが、1月17日に「校長を囲む会」を開催しました。短い時間でしたが、平校長や教員の方々から最近の麻布や麻布生の状況を伺ったり、感じている疑問を質問したりするなど、保護者にとって麻布を知るいい機会になったのではないかと思います。応募者多数で、残念ながら参加できなかった保護者の方々もおられますが、是非、また次回ご応募ください。

2月14日には「ファミリーコンサート」を開催しました。スーパーマリオに出会えたり、盆踊りを踊ったり、とても楽しいコンサートになりました。中学1、2年生もファミリーコンサートに出演し、堂々と演奏したり踊ったりしている姿に感心しました。インフルエンザが流行しており、学級閉鎖の影響を受けるなど最後まで大変だったと思いますが、準備いただいた行事委員会の皆様、出演者、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

ファミリーコンサートで麻布に行かれた方は気づかれたと思いますが、正門入ってすぐ右の掲示板に大きなポスターが掲げられています。4月17日公開予定の映画「人はなぜラブレターを書くのか」のポスターです。2000年3月8日、中目黒駅近くで起きた日比谷線脱線事故で亡くなられた当時麻布高校2年生の富久信介さんがモデルになっています。あらためてご冥福をお祈りし、映画館に足を運んでみようと思います。

春が来ると、文化祭ももうすぐです。生徒たちの準備にも余念がないことと思いますが、この時期、高額な金額を負担して後輩に奢ったりしていないか気になります。保護者の方々もご子息の金銭面のやりとりにご注意いただけると幸いです。持続可能でエネルギー溢れる文化祭を楽しみにしております。

## 学年代表 活動報告

1月17日（土）、校内地下食堂にて「校長を囲む会」が開催されました。多数の応募者の中、抽選で選ばれた約80名の保護者と、平校長、高橋先生、岩佐先生が参加されました。先生方には8つのテーブルを回ってご歓談いただきました。

ドリンクも用意し、終始リラックスした雰囲気の中で、普段はお子さまから聞きにくい学校の近況について、楽しく活発な会話が広がっていました。先生のいらっしゃる1テーブルあたりの時間は短かったのですが、各テーブルでご子息の学年ができるだけばらけるようにしましたので、保護者の方々同士でも、有益なお話ができただけではないでしょうか。

今回、140名を超える多くの申し込みをいただき、本当にありがとうございます！食堂のキャパシティの限界があり、抽選で絞らせていただきましたが、残念ながら落選してしまった保護者の皆様、この会は毎年行われる予定です。是非ともまた、ご応募ください。先生方、そしてご参加いただいた保護者の皆様、ありがとうございました。



## 分科委員会 (1/2)

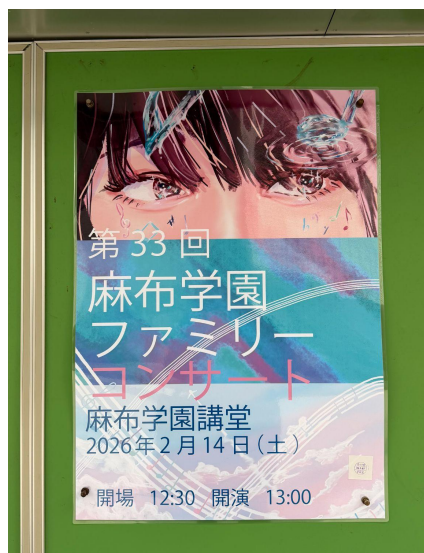
### 総務委員会 (PTA総会およびPTA全般の活動支援)

2026年を迎え、総務委員会では4月以降、次年度の委員へのPTA活動の説明と担当決めの準備や、5月のPTA総会の準備に着手しています。できるだけ分かりやすく、スムーズにご案内できるよう工夫していくとともに、現任の委員の皆様の負担の少ない、効率的な運営を目指していきます。

### 行事委員会 (文化活動の企画・運営)

2月14日、第33回ファミリーコンサートが開催されました。3部構成でほぼ予定時間どおりに進行し、盛況のうちに終演しました。ボランティアなどご協力くださった方々、ありがとうございました。

また2月15日には、新入生に向けたリサイクル品の販売会を例年どおり行うことができました。まだかわいらしい男の子たちが親子揃って麻布グッズを吟味する姿は、一緒に買い物などに行かなくなった息子の成長を実感する機会となり、感慨深かったです。寄付やボランティアでご協力くださった皆様、ありがとうございました。売上金総額749,300円を全額麻布学園へ寄付することができました。



### 新聞委員会 (年3回発行の「麻布PTA」の編集)

現在、PTA新聞第3号の制作が着々と進んでいます。高校卒業生への贈る言葉や、卒業を迎えた生徒たちのメッセージ、個性あふれる在校生への取材など、今回も見どころ満載です。卒業式の様子も掲載予定です。

4月の始業式に生徒へ配布いたしますので、ぜひ楽しみにお待ちください。

## 分科委員会 (2/2)

### 会報委員会 (年度末発行のPTA会報誌の編集)

おかげさまで、PTA会報53号は無事に校了し、納品を待つところとなりました。ご協力くださった皆さま、本当にありがとうございました。

委員一同の麻布愛が詰まった、ボリューム満点の一冊となりました。卒業生は卒業式、在校生は終業式の時に、ご子息経由で配布します。お手元に届く日をどうぞお楽しみにお待ちください。

### PTA活動推進委員会 (学園サイト内PTAページ管理運営、次期会長候補の選考)

春の兆しが少しずつ感じられる今日この頃、PTA活動報告のページに、来春からの麻布学園PTA委員会のご案内を公開いたしました。今年度は、冒頭にて名誉会長の校長先生からお言葉を頂いています。また、会長からのメッセージについて、新たに今年度版を掲載しています。そして、麻布学園PTA委員会の特徴についてさまざまな例があり、気軽にご覧頂けます。

併せて、保護者のみなさまに麻布学園PTA委員会のご案内チラシもお手元に届けたく、作成しているところです。活動内容などについて、麻布学園PTA委員の実際の様子をわかりやすく伝えられるよう、準備中です。

PTA活動推進委員会では、PTAからのお知らせや活動などについて、麻布学園ホームページ内への掲載を行っております。最近の掲載内容例は、先日バレンタインデーの日にとりおこなわれましたPTA行事委員会主催「第33回麻布ファミリーコンサート 開催のお知らせ」などです。今後も様々な内容について掲載いたします。どうぞご覧ください。

## 編集後記

2025年度PTA通信担当の学年代表です。今回もお読み頂きありがとうございました。

2月の入試休み、我が子の入試を思い出し、校舎へと消えていく背中が頼もしく見えたなあ、気の利いたこと考えていたら声掛けそびれたなあ、なんて記憶が蘇ります。

記憶といえば、最近読んだランガナスという科学者の本で知ったのですが、記憶には“レミニセンス・バンプ（記憶のこぶ）”と呼ばれる特殊な現象があり、心理学用語で、「大人になって人生全体を振り返ったときに、特に思春期～20代の記憶が突出して想起される」のだそうです。みなさん、どうでしょう？

このランガナスの記憶に関する視点はとても斬新で、記憶は単なる過去の再生ではなく、現在と未来を生きるための“意味づけシステム”であり、「記憶は未来を予測するためにある」と言います。脳は覚えておくべき重要な部分を選んで再構成するし効率的に働くために大半を忘れるそうです。記憶＝記録、ではなく、記憶＝物語制作者、なので、人の人生に影響を与えるのは、何を経験したかではなく何を覚えているかにかかっていると言えるのだそうです。

さて、我が家にもおります中高生も何気ない日常を過ごしていますが、そんな10代の断片が、将来大人になった彼らの中での“最も鮮明な記憶の時期”になると知ると、家庭や学校での何気ない風景も独特の色を帯びてきます。そこで目にしたのが、冬季オリンピックでフィギュア金メダリストとなったアリサ・リュウ（20）の“*What is there to lose? Every second you are there, you are gaining something. (失うものって何？ その場にいる一秒一秒で、何かを得ているんです。)*”という言葉です。

10代から20代、彼らは失うものよりも得るものの方が圧倒的に多い時期を生きています。挑戦でも、迷いでも、小さな失敗でも、多くのことは人生で初めて経験するものであり、そこには必ず“何かを得ている瞬間”が存在している。だからこそ、この時期が、大人になり過去となる時、未来を生きるための大切な記憶となると言えるのでしょうか。

「10代と20代は人格形成に多大な影響を与える年代である。その時期に触れた音楽や映画には特別な何かがあって、それが（大人になった）私たちに重要な意味を感じさせる」ともランガナスは言っています。たまには自分たちが10代の時に夢中になった音楽を、現役10代と分かち合ってみるのも良いかもしれません。

参考文献：「人はなぜ記憶するのか（Why We Remember）」  
チャラン・ランガナス著／梶山あゆみ訳（早川書房 2025）